

熊本学園大学水俣学研究センター

プロジェクト2：水俣・芦北地域の地域再構築モデルの提案

水俣・芦北地域戦略プラットフォーム（PF）
の発足からゼロ・ウェイスト円卓会議へ

地域戦略PF発足に至るまでの 取り組み

- ① 水俣市執行部への趣旨説明と提案
- ② 水俣での市民向け公開講座の開催
- ③ 様々な個別プロジェクトへの関わり

公開講座の開催

- 第1期 「地域と福祉を考える」 (2005年11月)
- 第2期 「いのちと環境を考える」 (2006年1月)
- 第3期 「経済と社会の今を考える」 (2006年7月)
- 第4期 「子どもは未来、子どもは地域の宝」
(2007年10月)
- 第5期 「地域力について考える」 (2008年10月)
- 第6期 「つながり 人と人、人と自然、山・川・海につ
ながりについて考える」 (2009年10月)

個別プロジェクトへの関わり

- ①食育パートナーシップ事業（2003年～2007年）
連携会議，作業部会，フォーラムなど
- ②「水俣市健康増進計画」策定事業（2005年～2007年）
水俣市健康づくり推進協議会
- ③水俣市社会福祉協議会地域ニーズ調査（2006年～）
- ④水俣に産廃はいらない！市民連合/みんなの会（2006年～2008年）
- ⑤水俣教育旅行誘致コンソーシアム（2007年4月～）
- ⑥第10回九州環境教育ミーティング（2006年3月）
- ⑦日本の環境首都コンテスト（2001年～2010年）

水俣・芦北地域戦略PFの発足

2006年5月

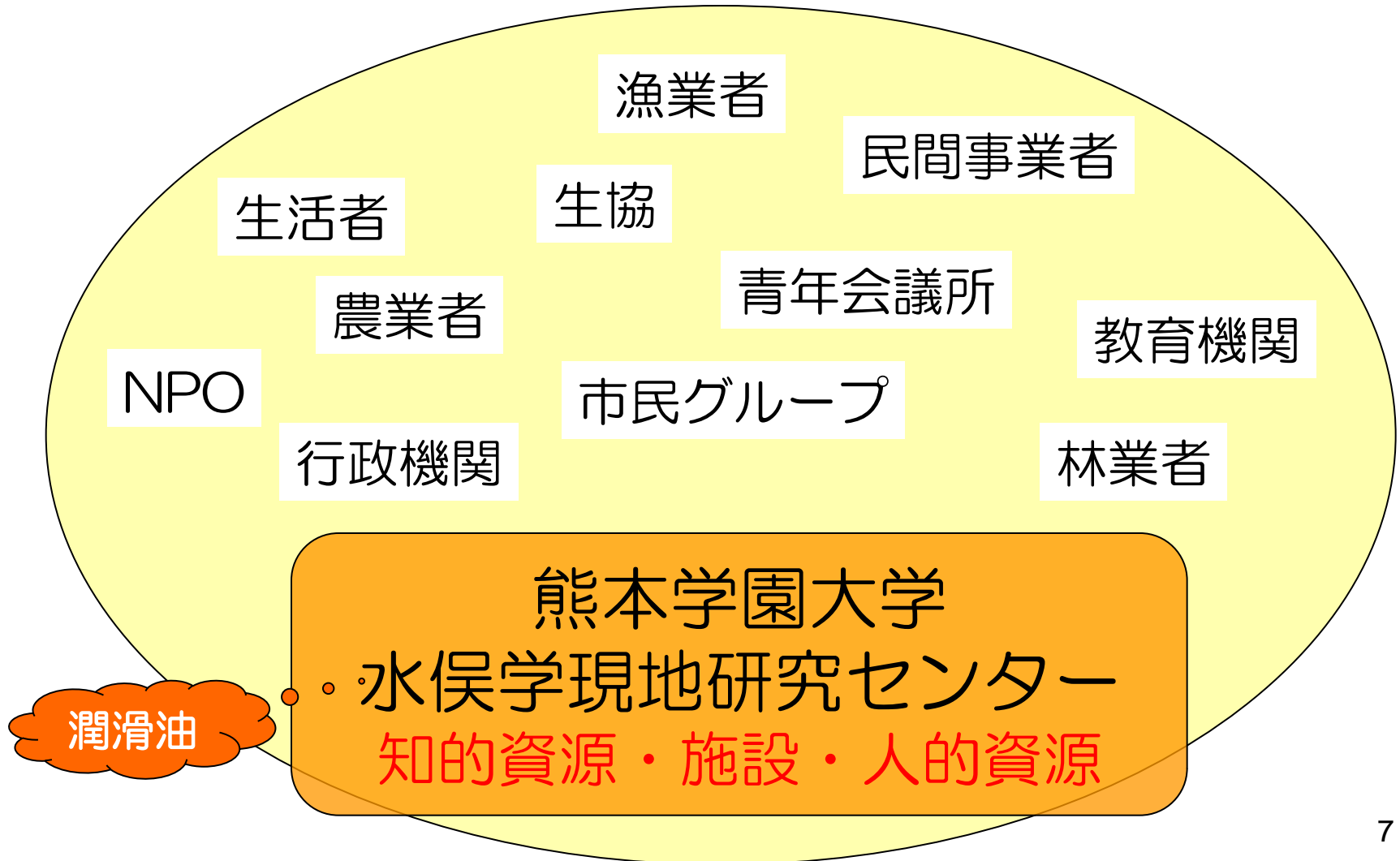
水俣・芦北地域戦略プラットフォーム

■水俣・芦北地域の多様な生活者・関連機関の
持続的な交流・相互理解・関係性構築の舞台
(ソーシャル・キャピタルの醸成)

■地域の新たな可能性を拓く〈知識・情報〉の
形成・蓄積・発信の舞台
(合意形成・政策提案)

■地域の多様な担い手（社会的アクター）を
育成する舞台
(人材育成：「共に学び・気づき・育ち・変わる」)

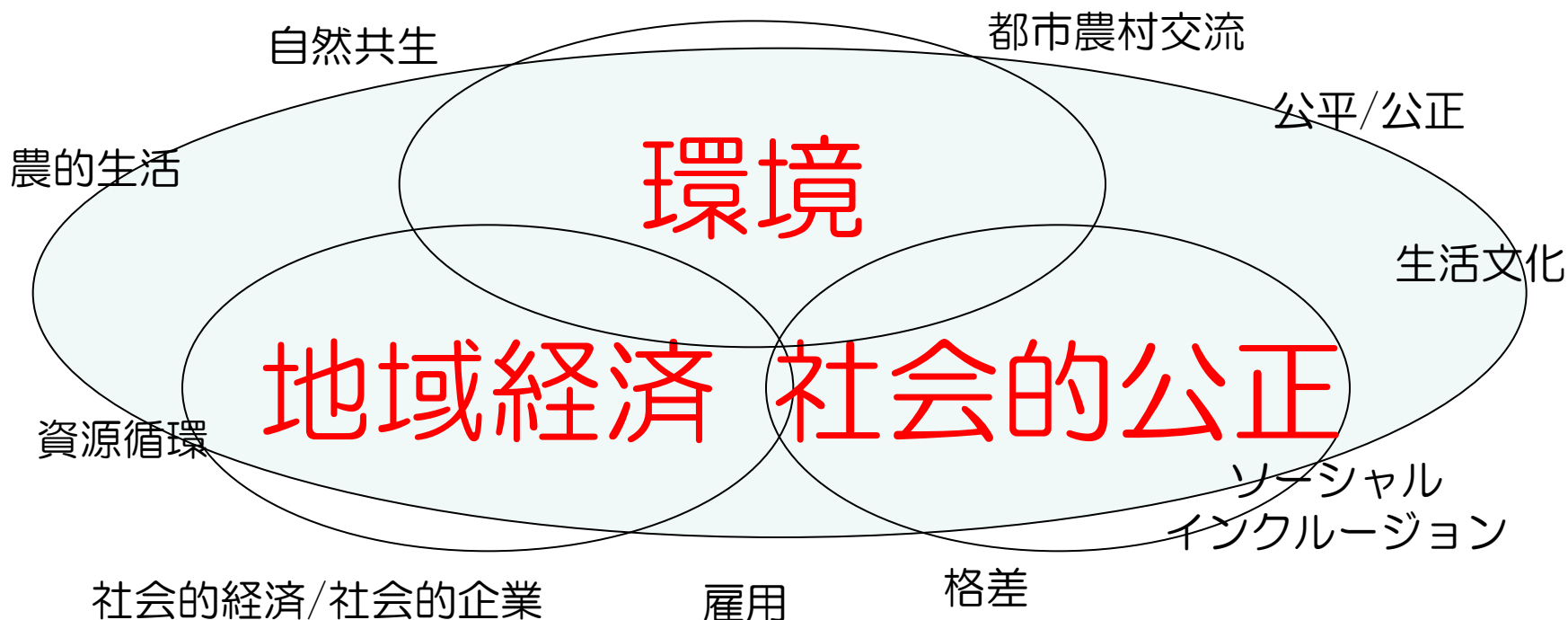
地域戦略プラットフォームの参画者



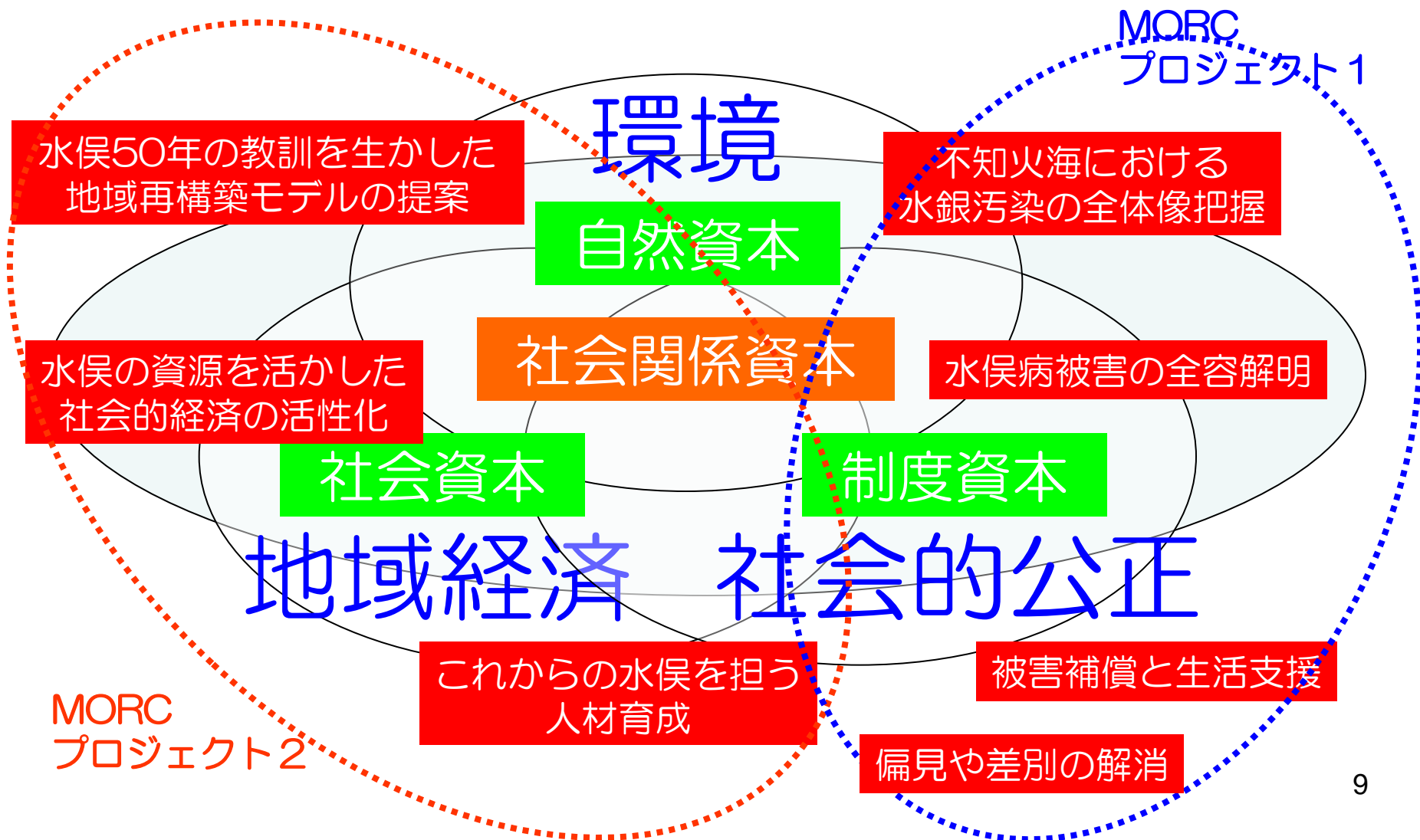
地域戦略プラットフォームのめざすもの

その1：持続可能な水俣・芦北地域の実現

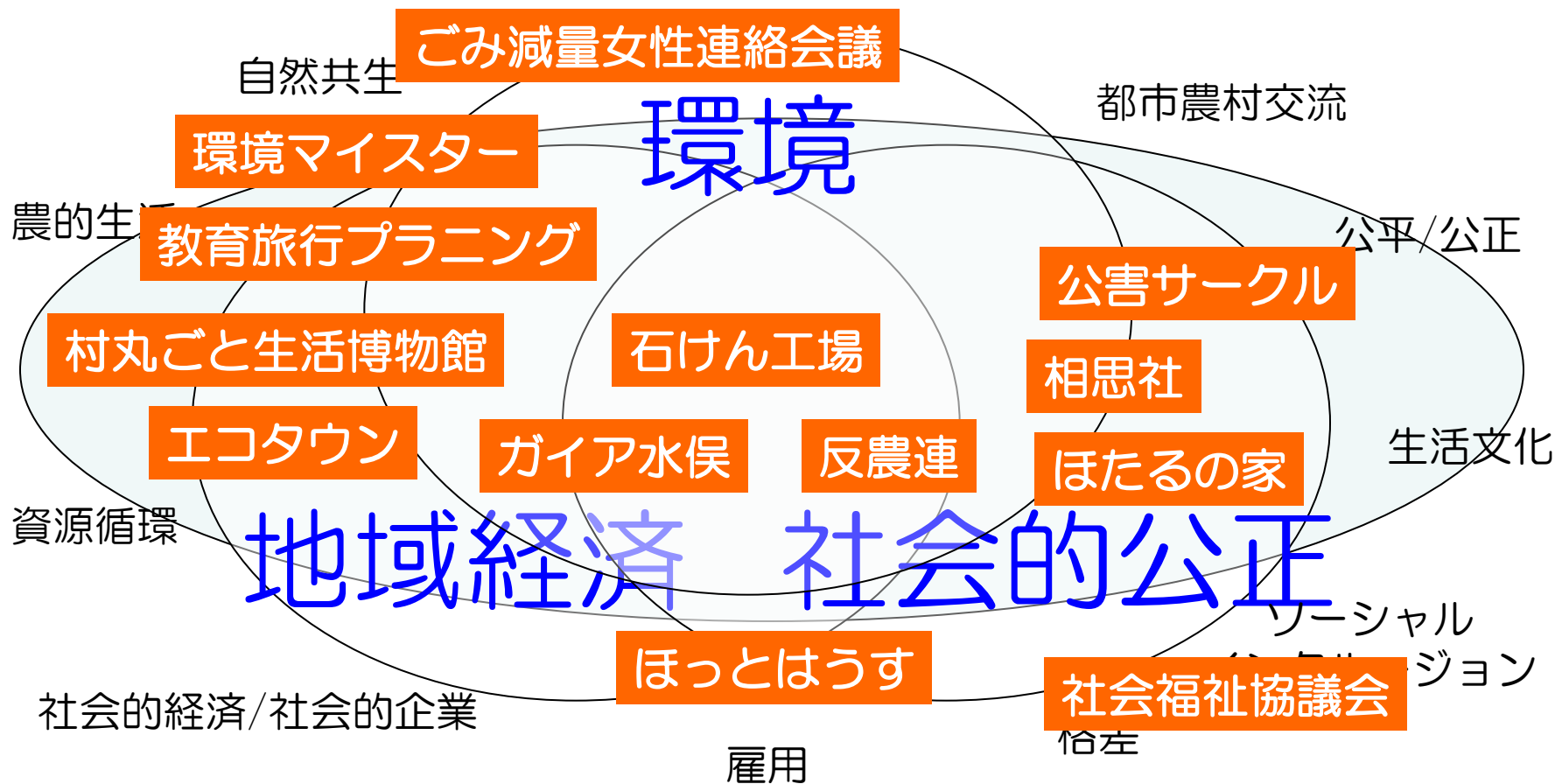
3つの側面からの持続可能性の追求



持続可能な水俣・芦北の実現に向けて、 今、求められているもの



「負の遺産」をベースした多様な取り組み



「潤滑油」としての「水俣学現地研究センター」

地域戦略プラットフォームのめざすもの

その2：新たな公共空間の創造

多様な個人・NPO・関連機関の
参画・協働による地域の運営

ソーシャル・ガバナンス

エコタウン
田中商店

営利
セクター
民間事業者

JAあしきた

企業組合
エコネットみなまた

福田農園

愛林館

パブリック
セクター

行政機関

県地域振興局

環境マイスター

水俣市

水俣芦北
公害サークル

非営利
セクター

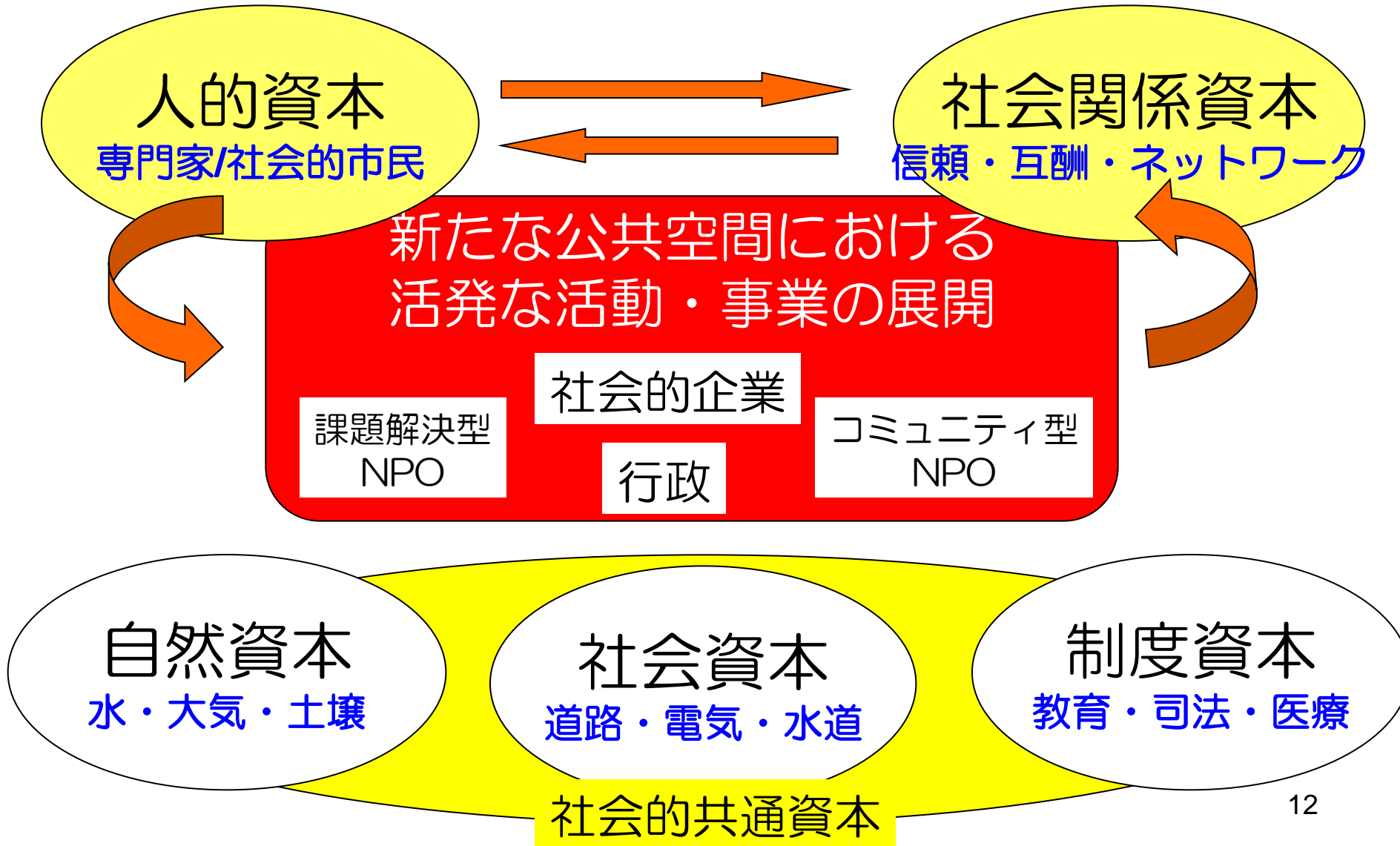
個人・NPO・自治会

頭石村丸ごと
博物館

水俣教育旅行
プランニング

手段としての協働/パートナーシップ

社会関係資本と新たな公共空間



水俣・芦北 地域戦略プラットフォーム

～地域戦略の提案までの道筋～



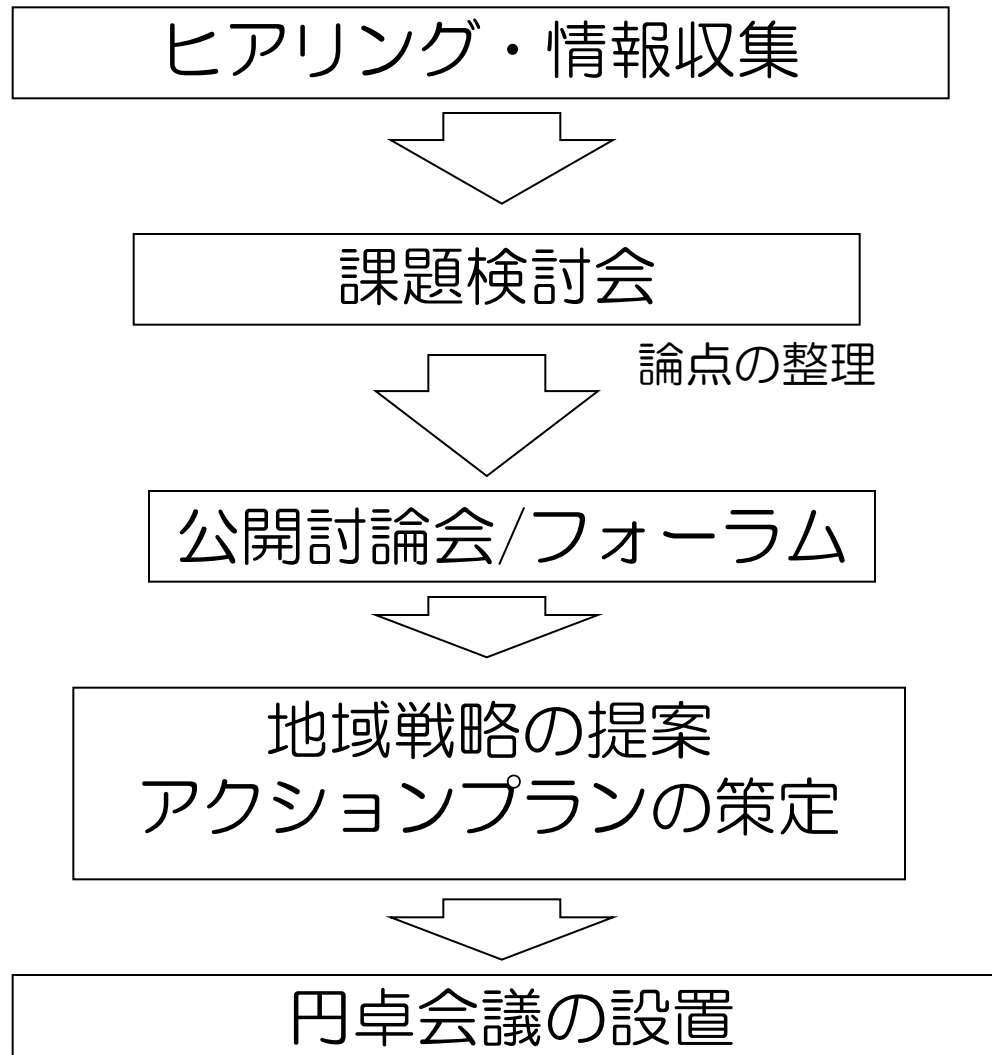
熊本学園大学 水俣学現地研究センター

2005年8月水俣市浜町に開設された
水俣学現地研究センター

2F 会議室



地域戦略の提案までの道筋



これまでの経過（初年度）

- ・ H18.6.19 第1回課題検討会
“ごみ22分別とリサイクル”
- ・ H18.8.21 第2回課題検討会
“廃棄物の削減と発生抑制”
- ・ H18.10.16 第3回課題検討会
“公害学習/環境学習の現状と課題”
- ・ H19.1.22 第4回課題検討会
“公害学習/環境学習の現状と課題”
- ・ H18.3.19 第5回課題検討会
“村丸ごと生活博物館の取り組み”
- ・ H19.4.14 **ごみ減量・リサイクル市民フォーラム**

プラットフォーム世話人会



市民フォーラム



水俣市への提言

熊 本 日 日 業 界 月 刊 平成 19 年 (2007)

ごみ減量など提言

水俣・芦北地域戦略PF

水俣市に 今後の在り方示す

熊本学園大水俣学研究センター(原田正純センター長)が主催する「水俣・芦北地域戦略プラットフォーム(PF)」のメンバーが十七日、水俣市役所を訪れ、ごみ減量とリサイクルに関する

五項目を柱とする政策を宮本勝彬市長に提言した。PFは市民や水俣で活動する企業、NPO法人行政の担当者らが世話人となって昨年六月に発

足。水俣病事件で疲弊した地域再生の道を探り、戦略的な政策を打ち出すと二カ月に一度の検討会で議論を重ねている。初年度のテーマは「ごみ減量」「公害・環境学習」「村丸ごと生活博物館」で、今回初の提言にこぎ



水俣市長に今後のごみ政策を提言する水俣・芦北地域戦略プラットフォームのメンバーら＝水俣市役所

採択も求めた。提言を受けた宮本市長は「水俣の今後の生き方を示していただき、ありがたい。環境首都に向け、早急に議論の場を設けて具体策に取り組みたい」と話した。(渡辺哲也)

着けた。提言では、二十年后を見据えた長期的なごみ減量計画を策定するよう提案。現在の排出量を前提とした廃棄物対策から転換し、ごみを減らす消費活動や焼酎瓶を再使用する「Rびん」の普及などの取り組みを優先させるよう求めた。また各施策の進捗よく状況を継続的に議論する場づくりに加え、市内三百カ所のごみステーションなどの課題の把握、焼却・埋め立て処分をなくすよう努める水俣版「ゼロ・ウェイスト宣言」の

水俣市への5つの提言

フォアキャスト
ングからバック
キャスト
ングへ

⇒めざす姿の共有

「出口（川下）」
対策から「入り口（川
上）」対策へ

⇒3Rの優先順位の明
確化

廃棄物対策の現状と
課題に関する情報共
有と、継続的な議論
を保障する「場」の
確保

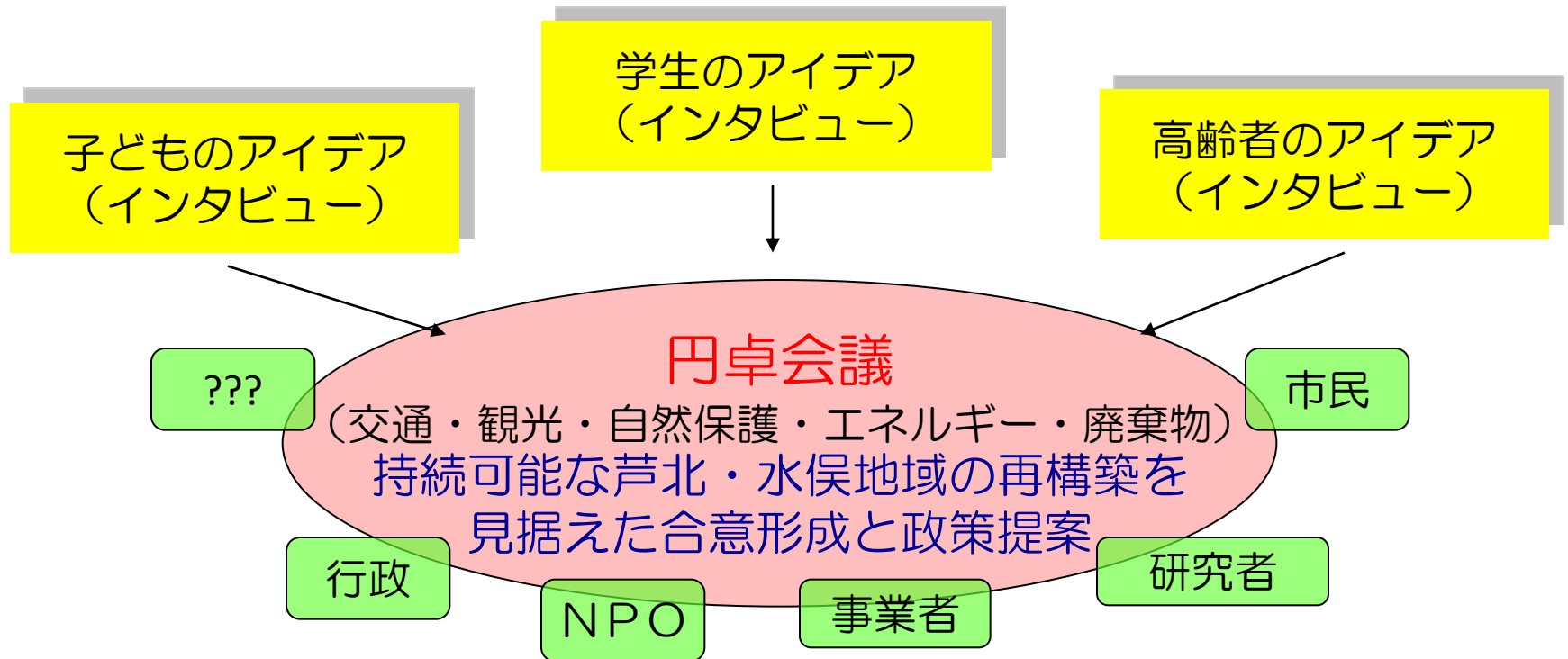
地域（300のステー
ション）に固有な
ニーズ/課題と成果の
把握

「ゼロ・ウェイスト
宣言」の採択による
他都市との連携

情報共有と、継続的な議論を
保証する「場」の確保

ゼロウェイスト円卓会議の設置

円卓会議のイメージ



ポイントは？

- すべての個人・グループ・セクター間の情報共有、相互交流、議論を出発点
→それぞれの主体はパズルの一つひとつのピース
- 議論の結果を分かち合い、問題点を共有しつつ共に行動する

ゼロウェイスト円卓会議のメンバー

- ごみ減量女性連絡会議
- 水俣市婦人会
- リサイクル推進委員会
- NPO法人・水俣教育旅行プランニング

- 地元茶農家/商店街
- 企業組合・エコネットみなまた（PF世話人/客員研究員）
- 水俣エコタウン協議会（PF世話人/客員研究員）

- 熊本学園大学水俣学研究センター（PF世話人/客員研究員）

- 水俣市・市会議員

- 水俣市環境対策課（PF世話人）/環境クリーンセンター
- 水俣市商工観光課
- 水俣市環境モデル都市推進課（PF世話人）

円卓会議を継続・発展させる要因

- ① 目的に沿ったふさわしいパートナー（メンバー）を選ぶ
- ② それぞれのパートナーが自身の特質と弱点を知る手助けをし、それぞれが主張しやすく、また成果を得やすい活動の機会を提供する
- ③ それぞれが必要とする資源と活力の利用を最大化する
- ④ 重要な問題を討議することのできる定期的会合、フォーラムを制度的に保障する
- ⑤ 目標に達するため各々が批判し合うことを認める対話のメカニズムを用意する
- ⑥ 力あるパートナー同士の対立の危険を避けるため異なる意見を調整する能力を持つ

ゼロ・ウェイスト円卓会議

第1回（2008年1月）～第12回（2008年11月）

➤情報共有

- 水俣市におけるごみ処理の現状に関する情報共有と、今後の在り方（生産・流通・消費・廃棄の各側面）についての議論
- 排出量/排出内訳の分析
- ごみ処理経費 → 廃棄物会計
- 燃やすごみの組成分析
- リサイクル率の推移と資源物の行方

➤「ゼロ・ウェイスト宣言」の策定

- 作業部会の設置（第1回（2009年9月）～第5回（2009年11月））
- 「前文」、「水俣がめざすゼロ・ウェイストのすがた」、「ゼロ・ウェイストのまちづくり水俣宣言」の検討

➤市民参画によるごみステーション調査

- ステーション予備調査の実施
- 調査マニュアルの策定

➤リデュース/リユースの取り組み：Rびん、給茶スポット他

➤その他

ゼロ・ウェイストへの道

2009 ゼロ・ウェイストの まちづくり水俣宣言



2009 レジ袋削減運動



2009 給茶スポット社会実験



2008 環境モデル都市認定



2008~ ゼロ・ウェイスト円卓会議



2008~ 海藻の森プロジェクト



2007~ みなまた環境大学



2007~ 棚田の食育士講座



2006~2008 「産廃阻止！水俣市民会議」



2007~ エコ路人



2002~ 村丸ごと生活博物館



2005~ 給食畑



2001~ 環境マイスター



2005・2006・2008
日本の環境首都コンテスト総合1位



2000~ 学校版/家庭版環境 | SO
2001~ 保育園・幼稚園版/
旅館・ホテル版環境 | SO
2002~ 畜産版環境 | SO



2003~リユースびんモデル事業



2001 エコタウンプラン承認



1993~ ごみの分別収集



1999 | SO14001取得
2003~ 環境 | SO自己宣言



2001 水の経路図(寄り会)



1999~ エコショップ認定



1997~ 食品トレイ削減運動



1987~ 水俣せっけん工場



1996~ 地区環境協定

1992 環境モデル都市づくり宣言



1977~1990 公害防止事業

1968 水俣病公害認定



1956 水俣病公式確認

1932 アセトアルデヒド生産開始



1908 チッソ操業開始



ゼロ・ウェイストのまちづくり水俣宣言 行動計画

③できるだけまわす

循環システム

①できるだけへらす (必要最小限)

流入

リデュース

短期目標(1年程度)

- ・マイマイ運動の展開 ・給茶スポットの設置
- ・レジ袋有料化実施店舗の拡大 ・エコショップの推進
- ・過剰包装の削減 ・地産地消・給食畑の推進

中期目標(3~5年程度)

- ・給茶スポットの普及

長期目標(10年程度)

- ・製品等に関する拡大生産者責任の徹底に向けた国や企業等への働きかけ

短期目標(1年程度)

- ・ごみ分別の徹底
- ・新たな分別の実施(廃食用油、草木、レアメタル)
- ・Rびんの普及
- ・リユース・リサイクル品の利用促進

中期目標(3~5年程度)

- ・新たな分別の検討(燃料ごみ、RPF)

長期目標(10年程度)

- ・クリーンセンターに代わる施設の建設(油化・固形燃料化施設など)
- ・企業が作ったものは企業が自主回収、生ごみは地域内処理で堆肥化など、行政を介さない資源循環の検討

②かぎりなくへらす

流出

リデュース

短期目標(1年程度)

- ・ごみの減量化の検討(燃やすごみの有料化、粗大ごみの有料化・戸別回収)
- ・岡山最終処分場の機能調査
- ・不法投棄マップの作成及び公表

中期目標(3~5年程度)

- ・地域の生き物調査→地域資源マップの作成及び公表
- ・岡山最終処分場の閉鎖及び新たな広域処分の検討
- ・廃棄物会計の導入によるごみ処理コストの「見える化」

長期目標(10年程度)

- ・最終的に残るごみの処理の検討(処分後の残渣等)

リユース・リサイクル

④みんなでつくる

短期目標(1年程度)

- ・ゼロ・ウェイスト宣言ホームページの作成 ・ゼロ・ウェイスト地域講座の開催 ・家庭版環境ISOの普及促進 ・市民参加のごみステーション調査
- ・情報の共有と議論、合意形成の「場」づくり→「ゼロ・ウェイスト円卓会議」の発展 ・ごみ組成調査
- ・「環境モデル都市フェスタ」をきっかけに、ゼロ・ウェイスト宣言(予定を含む)自治体との現場レベルでの連携を図る。→ゼロ・ウェイスト自治体での持ち回り会議の開催
- ・法制度等に関する国への提言や働きかけ ・家庭、学校、事業所等における「ゼロ・ウェイスト宣言」の検討・普及 ・リサイクル還元金の現状及び問題点について検討

中期目標(3~5年程度)

- ・活動の核となるNPO法人「ゼロ・ウェイスト・センター(仮称)」を設立、資源ごみ持ち込みやリユース・リペアの拠点としても機能させる。
- ・近隣自治体(津奈木町、芦北町)に対する呼びかけ ・エコポイントの検討・導入 ・リサイクル還元金の新たな仕組みについて検討
- ・回収された資源ごみの行方の調査及び公表

長期目標(10年程度)

- ・ゼロ・ウェイスト宣言自治体の全国的組織化

水俣市への5つの提言

フォアキャスト
ングからバック
キャストへ

⇒めざす姿の共有

「出口（川下）」
対策から「入り口（川
上）」対策へ

⇒3Rの優先順位の明
確化

廃棄物対策の現状と
課題に関する情報共
有と、継続的な議論
を保証する「場」の
確保

地域（300のステー
ション）に固有な
ニーズ/課題と成果の
把握

「ゼロ・ウェイスト
宣言」の採択による
他都市との連携

廃棄物に関わる地域に固有な ニーズ/課題と成果の把握

- ・ 300か所のごみステーションを対象とした聞き取り調査
- ・ 中学校へのヒアリング

ごみステーション実態調査

千 聞

(第3種郵便物認可)

ごみ分別収集の課題探る

熊本学園大 水俣市で聞き取り調査



ごみステーションの現状について熊本学園大の調査にこたえるリサイクル推進員（右から二人目）＝水俣市

水俣市が取り組む家庭ごみの二十二分別収集の現状や課題を探ろうと、熊本学園大水俣学研究センター（原田正純センター長）は二日、同市内約三百カ所にあるごみステーションごとの住民聞き取り調査を始めた。同センターが主催し、

市民などをつくる「水俣・若北地域戦略プラットフォーム」は七月、ごみ減量に関する政策を市に提言している。今回の調査でよりきめ細かい資料を提供し、市の施策に反映してもらうのが狙い。調査には大学院生や市民団体のメンバーら約二

十人が参加した。二日から三日間、三班に分かれて市内二十地区のリサイクル推進員から、ごみステーションの収集時間や方法、住民が感じている課題などを尋ねた。今後定期的に水俣入りし、全地区を調べる。担当の宮北隆志・同大

水俣学現地研究センター長は「資源ごみ収集がコミュニケーションの場として機能している地区もあるが、高齢化が進み、今の分別収集が続けられるか不安の声もあった。地区による事情の違いを再認識した」と話している。（渡辺哲也）

22分別ステーションの状況（2区浜町）



リサイクル推進委員へのインタビュー



「子どもが少ないし、高齢者も多い。」
「人のつながりが最近では薄くなったと思う。」

「分別が難しく迷う人が多いから、ステーションの現場を離れることができない。」

リサイクル推進委員へのインタビュー



「ステーションの時間帯（7:00～7:30）は、始まりから終わりまでがコミュニケーション。『どぎゃんしよったな』とお互いに声をかけ合う。」

「『ルール』は、敢えて『ルーズ』にしている」

自治会長へのインタビュー



「22分別は定着したが、ゴミの総量を減らすためにはレベルアップが必要。どうすれば、もう一段上の取り組みができるか考えないと。」

中学校教員へのインタビュー



「地域住民からの要請で取組をスタート、環境学習の他、地域貢献も大きな目的」

中学校教員へのインタビュー



「生徒がステーションに関わることの意義は、『環境学習』よりも、『生活指導』。地域の人に顔を覚えてもらって、声をかけてもらったり、見守ってもらう」

「分別を通して世代間のコミュニケーションを図る」

ステーション調査⑤

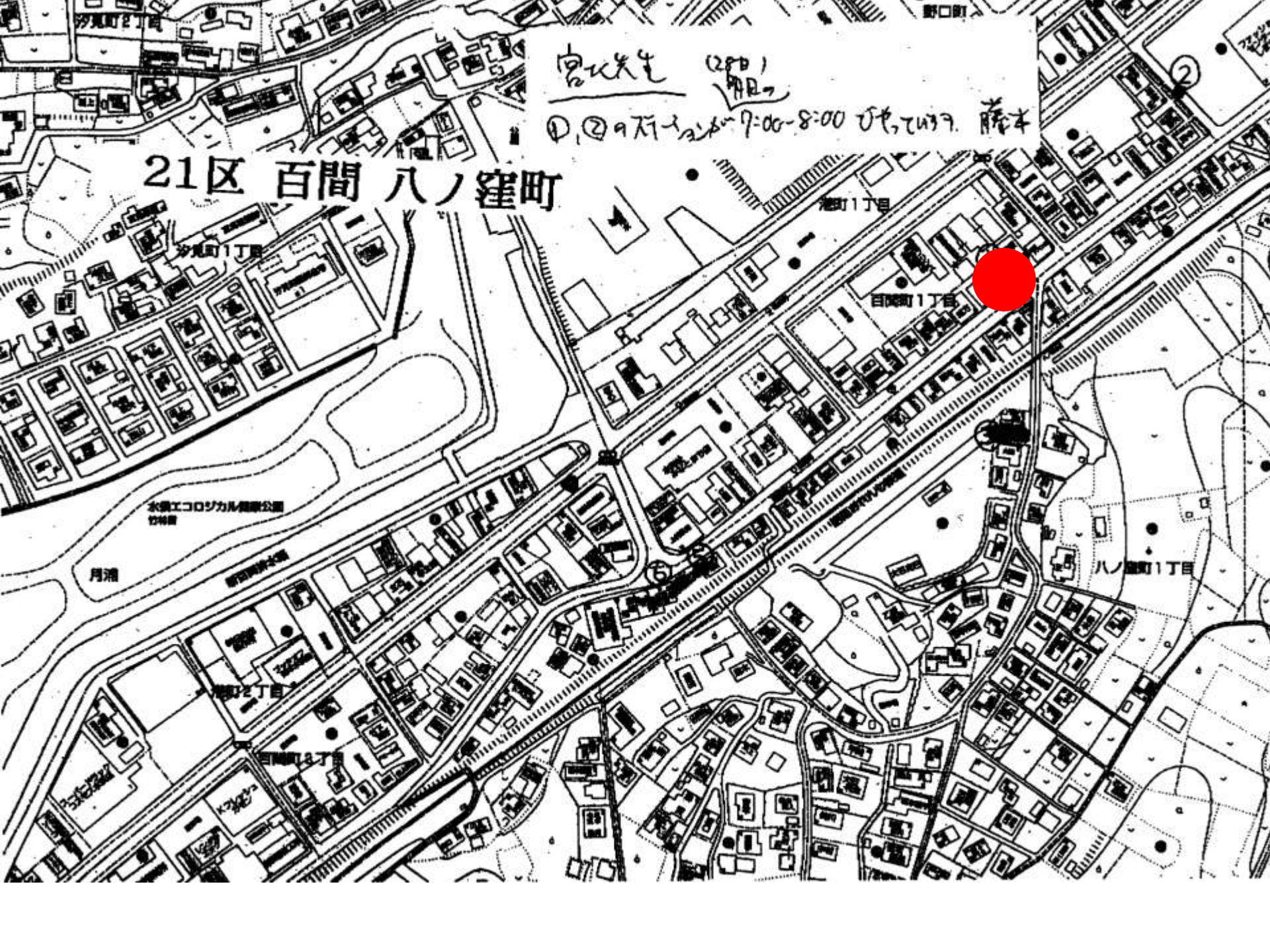
2009年7月28日

21区 1-①

百間八ノ窪町

21区 百間 八ノ窪町

宮城生 (2001年)
①、② 9月2日 7:00-8:00 市役所 藤本





ステーションの近くでゴミ出しの準備が始まる



推進員がコンテナを並べ始める

6:50



コンテナを並べを手伝う人が、青いシートは古紙類の置き場



ごみ分別が始まる



推進員

床屋の
おばさん



当番

当番

当番

推進員

床屋のおばさん

当番

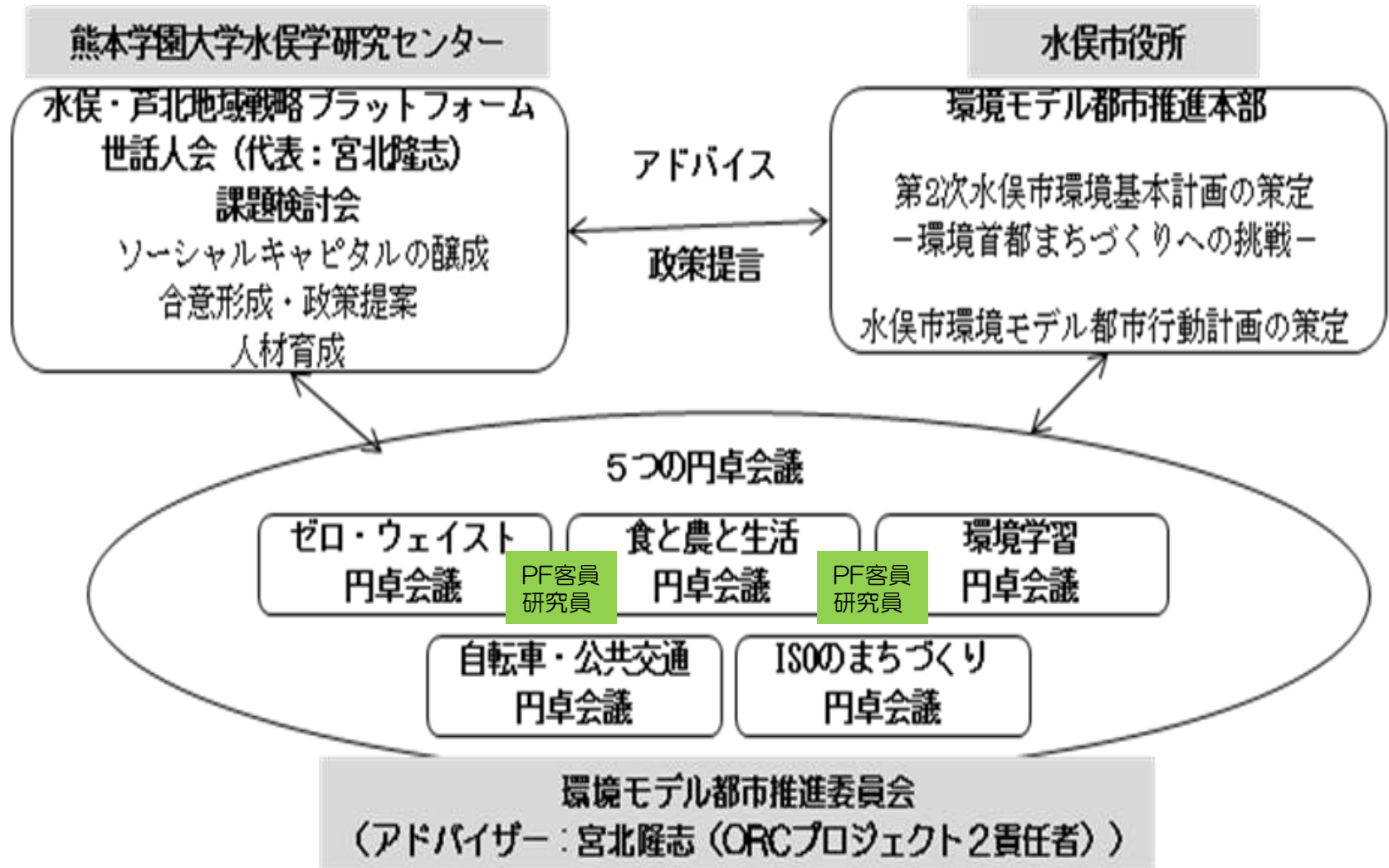


コンテナの片づけ

モデルとしてのゼロ・ウェイスト円卓会議 から生まれた新たな円卓会議

「環境首都」実現の原動力としての円卓会議

環境モデル都市推進委員会



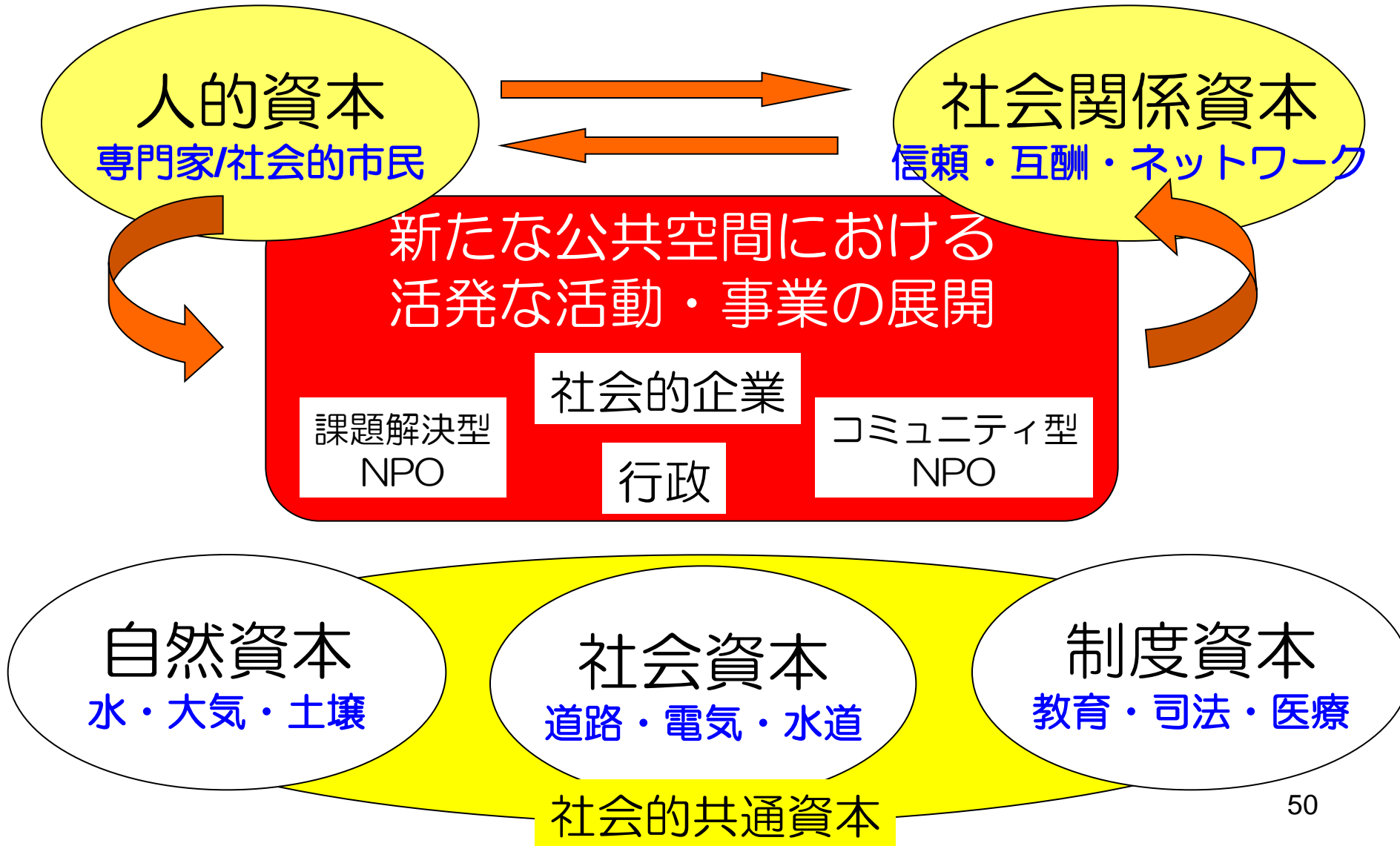
ガバメントからガバナンス への転換

英国に学ぶ、協働の「しくみ」づくり、
「ひと」づくり、「場」づくり



行政/専門家依存への脱却から民主主義
のバージョンアップへ

社会関係資本と新たな公共空間



英国視察研修

第1回 2007年2月12日～2月21日

テーマ：英国の自治体におけるパートナーシップのしくみづくり

■*Doncaster: Doncaster Metropolitan Borough Council, Doncaster Community Recycling Partnership*

■*Sheffield: Sheffield City Council, Sheffield Community Enterprise Development Unit (SCEDU), Key Fund for Social Economy, Groundwork Sheffield, Green Estate*

■*Nottingham: Hill Holt Wood, Attenborough Nature Center (Nottingham Wildlife Trust)*

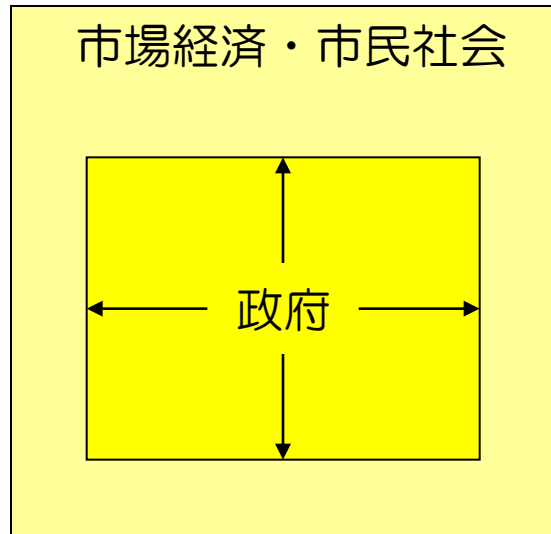
第2回 2009年3月10日～3月17日

テーマ：英国シェフィールド市における地域戦略パートナーシップと社会的企業の動向

■*Sheffield: Sheffield First, STEP Development Trust, OFFER, Sheffield Community Enterprise Development Unit (SCEDU), Green Estate Ltd, STEP Development Trust*

福祉国家・新自由主義国家から 「第三の道」のガバナンスへ

福祉国家

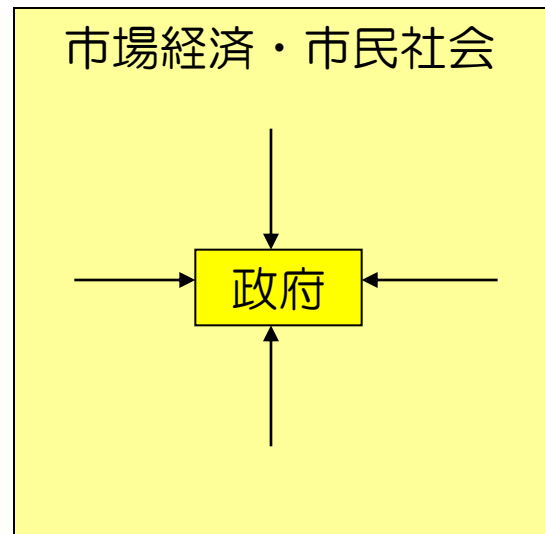


「ゆりかごから墓場まで」

1979年～



新自由主義国家



「小さな政府」

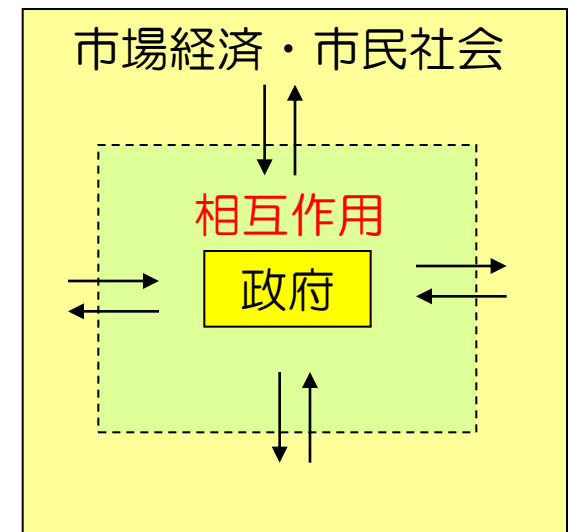
サッチャー/メジャー
政権

1997年～



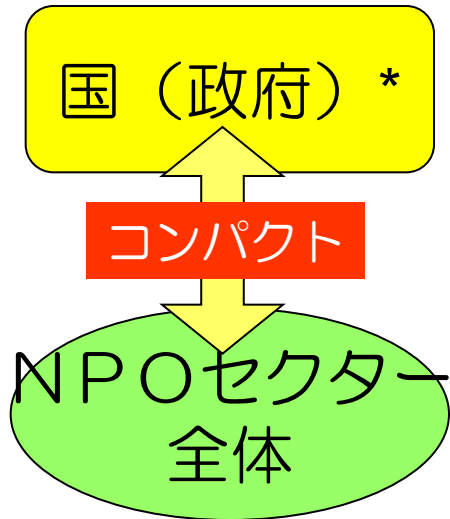
ブレア/
ブラウン政権

「第三の道」のガバナンス



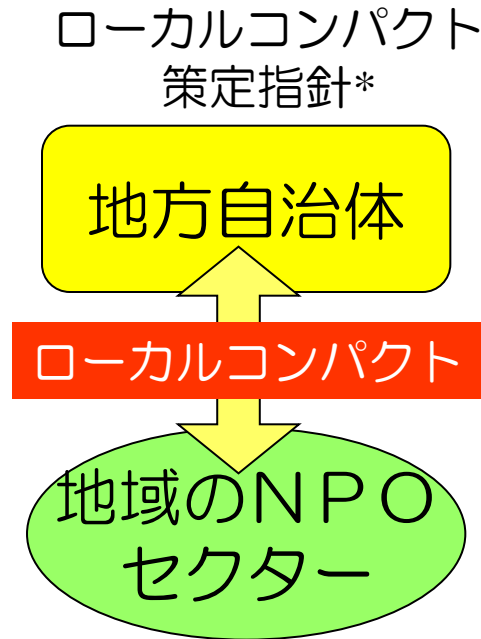
英国における協働/パートナーシップを保障する枠組み

1998年



*イングランド、スコットランド、ウェールズのそれぞれの地域で

2000年



*2007年の報告書では、「99%の自治体で策定済み、もしくは、策定中」

中央政府
EU

資金

2001年



持続可能な水俣・芦北の実現に向けて、 今、求められているもの

